

Birth day

70 回生学年主任 丹生 憲一

120 周年記念式典、記念文化発表会が幕を閉じました。

すばらしい 3 日間でした。入学して間もないオリエンテーション合宿から、「3 年次に 120 周年を迎える」ということを言われ続け、学年集会では毎回校歌を歌い、3 年間の総決算がこの日にあったと言っても過言ではありません。廣岡里菜さんが「よろこびの詞」を述べ、体育館に校歌が響きわたった時には、卒業式を迎えたかのように錯覚して涙さえ出ました。…前日には O 野 S 男先生の誕生日を、全校生徒による「Happy Birthday」の大合唱で祝い、式典に先立って 2 年生が旧制中学校、高等女学校の校歌を歌い、教頭先生の講評も歌で締めくくられ、この式典と文化発表会には最初から最後まで歌声が溢れていました。

劇団七十怪星の「犬童球溪物語」もすばらしいパフォーマンスでした。先生方、同窓会の方々からもお褒めのことをいただき嬉しく思っています。劇団員の皆さんはもちろん、この劇を最初から最後まで観て割れんばかりの拍手を送ってくれた皆さんに心から感謝します。平澤金之助先生と犬童球溪先生の目指された歌声の響き渡る理想の学園が 100 年の時を超えてここに実現したことを共に喜びましょう。

2 日目のステージは 70 回生 5 クラスの演劇の競演となりました。どのクラスも、役者ぞろいで、舞台セットや映像にも目を見張るものがありました。最優秀賞を勝ち取った 3 年 4 組の「君の秘話」は、数人の先生方から「泣かされた」というコメントをいただきました。中道さゆりさんが最後に手紙を読むシーン…。本人は演技を通り越して本当に泣いていたそうですが、思わずもらい泣きした人も多かったのではないのでしょうか。明治時代にタイムスリップするという設定、シンボルツリーであるくすのきの持つ力、そして友情…。唯一の大道具くすのきは、終始存在感がありました。キャストの演技はもちろんですが、あの脚本を書いた山田翔也君の創作力に脱帽します。回想シーンを描いた映像を作った久下さつきさん、平中はなさんは 120 周年記念ムービーの制作、おまけに 2 年生のクラスの映像作成にも携わったということで（最後の ands も）大活躍でした。

優秀賞には 6 組の「名探偵コナン」が入りました。クラス全員で謎解きをするシーンは、観客を引き込んでいきましたが、最後にくす玉が割れなかったのはご愛敬！ 7 組の「千夜一夜物語」は世界史クラスの意地をかけて取り組んだ作品。2 組の「3 年 2 組」は 3 0 年後の同窓会に行くときと高校時代と違う。過去に帰って変えたい…というリアルな設定。5 組の「忘れられた童話たち」は絵本の主人公たちが消され、絵本好きの女の子が取り戻していくというファンタジー。いずれも、各クラスの持ち味がよく表れていたと思います。中庭の模擬店に行くと、1 組のはし巻きと 3 組のホットドッグが飛ぶように売っていたようです。今年も献血ボランティアの人たちが、AC/DC のような（…わからないだろうなあ）赤い角をつけて着ぐるみと歩き回っていました。見上げれば、700 人の心をつなぐ「祝 120 th」の旗…。ギター部が演奏し、書道部がパフォーマンスを繰り広げて、ここにも音楽と歌が鳴りやむことがありませんでした。柏陵会館では茶道部、華道部が展示とお点前をし、式典に来られた方がたの接待もしてもらいました。

3 日目は吹奏楽部の演奏に始まり、放送部、ギター部、有志発表でのバンド（NA4, ands）、大西貴也君のボイスパーカッション、「でぶっちょ ほそっちょ 70」の漫才、ダンスチームの共演…と続き、あっという間の 3 時間となりました。普段は、なかなか見ることのできない友達の一面が見られたのではないですか。盛り上がりの中にも、節度ある行動が見られ、柏高生のけじめある行動に感心するばかりでした。（残念ながら、個人的には展示会場に足を運ぶことができませんでしたが、どれも楽しかった！と評判で、120 周年記念にふさわしく高レベルだったことと思います。）柏陵記念館には「国際交流の半世紀」「丹波の偉人」「70 回生知の探究コース・探究 II」と 3 つのテーマで展示をしていましたが、見てもらえましたか？

今日は「文化公演会」。もう 1 日、文化の秋を楽しんで、いよいよ受験モードへと切り替えていきましょう。

<70回生のアルバム> 120周年記念式典・記念文化発表会 特集

